

平成30年度 学校経営方針

酒田市立浜田小学校 校長 渡邊 幸二

1 浜田小学校の使命（存在意義）

浜田小学校に課せられた使命は、

「みんなと共に、みんなのために生きる」公益の心をはぐくむ学校

であることです。

つまり、ふるさと酒田・浜田の地や人に深くつながりながら学び、ふるさとというフィルターを通して仲間と共により良い解決法を探して物事を思考し、自分の生き方を見つめながら何とか酒田・浜田に貢献したい、していこうとする人材を育成することです。どこでもできるような教育を施す場所ではありません。まずは、ふるさと酒田・浜田と深くかかわりながら学んでいくことが、やがてグローバルな視野や高い志を持って世界で活躍できる人材を育てていくことになるかと確信しています。

このフレーズが、浜田小学校で行われるすべての教育活動のベースになります。

2 本校の課題

昨年度までの取り組みにより、向上・改善された部分もありますが、今年度もそれらをさらに伸ばすべく大きく3点に注目します。

未来を生きぬき、未来を拓くための学力（主体性、協働的解決、表現・貢献）をつけること

自尊感情（自己肯定感）を醸成し、思いやりの心（他者意識）を育成すること

自分で生活をつくる（自己管理）、自分で自分を成長させる（自己育成力）強さをつけること

3 浜田小学校の教育目標

そこで、今年度の学校教育目標は、

自ら考え、自らの力で生きる子どもを育てる

とします。

子どもの姿のイメージとしては、「はまだ(た)」をとって

はまだ学ぶ子ども **ま**生活や地域から学びを創り、それを生活や地域に活かし貢献する子ども

も

主体的に学び、対話的な学びで高め合い、ゴールに向かう

ままっすぐな心をもつ子ども **ま**自分を信じ(自尊感情・自己肯定感)、

他人を思いやる(他者意識)まっすぐな心をもった子ども

たただくまい子ども **た**自分(の生活)を見つめ、自己管理(自己育成)できるたくましい子ども

自分の生活を自分でつくる 自分たちの学校は自分たちでつくる

という子どもに育てたいと思います。

4 平成30年度、経営のビジョン（＝課題克服のための方向性）

学校の課題を克服し、学校の使命を実現していくためのキーワードを掲げたいと思います。

「自」を全ての活動の根幹に据えながら（自ら 自分 自信 自立）

＋ 貢献(公益) と 温かさ

学習においても生活においても、まず「自分」の考えや思いを大切にできるような学習や話し合いができるようにしてください。誰からか与えられた課題ではなく、自分たちが思っている悩み、考え、疑問、理想を中核に据えた授業づくり、学級づくりです。そういう積み重ねが自己肯定感や自尊感情の高まりにつながります。子どもたちにとって、自分の意見や考えが(たとえ間違っていたり些細なことだったりしても)取り上げられ、認められて、励まされることにより意欲化につながります。特に、学んだことが日々の生活に活かされるような貢献(公益)活動を大切にすること(学びのゴールとする)で、子どもたちの学ぶ意欲や学んだ結果としての活用・探究型学力の向上を目指します。そのためには、日々の授業が、実際の生活や浜田というフィールドをベースにした学びとなるようにカリキュラムマネジメントを進めながら、力のつく単元を一つ一つ創造していきましょう。

また、これから生きる子どもたちが、今ある答えややり方を受身的に何の疑問もなく覚え、それをいくら効率的に再現・再生できるようになったとしても学力としては全くの片手落ちです。今、大切にされなければならないことは、課題に対して積極的に自らが思考し、最善と思われる解決策が仲間との対話の中で生まれるように育てていくことです。答えは誰かが示してくれるものではなく、自分で創り上げていくものです。もちろん本物の対話を支えていくのは、対教師、子ども同士の温かな人間関係です。

これは、教職員として、あるいは大人が仕事を進める上でも同じことです。学校課題を解決していく、あるいは学校教育目標を達成していく答えを持っているのはみなさん自身です。誰かの命に従って忠実に動くことだけでは、この困難な状況を打破することはできません。みなさんが持っているスタイルを大事にしながら、その思いを積極的に、主体的に課題解決に向け意を注ぐことが何よりも大切になります。さらに言えば、学校経営に主体的に参画するというのは、日々の授業や分掌上の仕事を、経営のビジョンに収斂させていくという、地道な教育の営みの積み重ねのことです。それは、自分の校務分掌に自分なりの思いを持って積極的に取り組むラストマンの姿です(エンパワメント)。何か特別のことを大々的にするのではなく、当たり前のことを一歩ずつ「改善志向」「解決志向」で進めていきましょう。

5 めざす子ども像・教師像

＜めざす子ども像＞

(1) はまだで学ぶ子ども

これについては、「3 経営のビジョン」に詳しく記しました。

(2) まっすぐな子ども

自分のことも好き(自己肯定感・自尊感情の高い)だけど、自分以外の人のことも大切にできる(他者意識のある)子どもを育てたい。強い同調圧力の中、子どもたちは自己を意識できず、また同時に、そばに同じ「人」が存在するのに、あたかもいないような言葉や行動をくり返してしまう。今、私たち教師や親などに必要なのは、子どものよさに着目し勇気づけ、また、他者を意識させる取り組むことである。そういう営みを継続することで、子どもたちの心にはやさしさや思いやりが育まれていくのではないだろうか。

(3) た(だ)くましい子ども

自分の生活を見つめ、自分の手で改善して行き、よりよい自分を自らが創り上げて行く流れを重視する。学校では、体力や健康面に限らず、自分たちの生活を自分たちでつくる

子どもを育てていく。そういう営みの中で、課題解決力も、がまん強さや協調性といった道徳性も、そして自己指導力などの非認知能力も育まれていくのではないだろうか。

＜めざす教師像＞ ～ 私たちは「人」を育てる仕事をしています ～

◎ 温かな教育をする教師

私たちは「人」を育てる仕事をしています。また、目の前の子どもたちは(我々もそうですが)未完成な人として存在し、間違いや失敗をくり返しています。それらの失敗をどう人としての成長につなげられるかが教育者としての価値です。ですから、教育をする者の根本には(日々の学校生活の中でももちろん)何より「温かさ」が必要です。我々は「北風と太陽」の「太陽」であらねばなりません。

◎ 子どもを中心に思考する教師

前例にとらわれず、常に「目の前の子どもにとってどうか、どうだったか」を視点にして考え、教育活動を展開する教師でありたいものです。「子どもは本当に学びたいと思っているのか」「力がついたのか」をふり返り、誠実に、少しずつ子どもと共に歩んでいく教師をめざしましょう。そういう教師は、まず子どもに信頼されます。だから、保護者にも地域にも信頼される教師となります。

◎ 貢献する教師～ラストマンとして

学校課題を解決する最前線にいるのは先生方です。日々子どもたちと接している先生方の感覚や瞬時の判断が重要になります。誰かの命を待ってから行動するのではなく、経営方針に沿って自分なりに判断して教育を行うラストマンとしての姿・態度が必要です。学校経営に積極的に経営参画し、学校教育に貢献する教師をめざしてください。

◎ マネジメントできる教師

どんな人にも「時間」は平等です。何となく取り組んでだいたい評価するのではなく、選択と集中を進めながら歩留まりを上げて行きましょう。ねらいを確かめ、効率的な学習となるように、結果的に時間を有効に使える授業づくりをしていきましょう。

また、危機を感じるセンサーの精度を上げ、自分自身が最大の危機管理人となりましょう。常に最悪を想定しながら、それを未然に防ぐ段取りを考えることが最大の危機管理です。前例踏襲は往々にして危機を招きます。

さらに、教育活動は常にPDCAで回し、課題を見つけ共有化しましょう。そして、それに「改善志向」「解決志向」で取り組み、子どもも教師もワクワクするような教育を創り上げていきましょう。

6 平成30年度の重点取り組み事項

＜めざす子ども像の実現のために＞

(1) 未来を生きぬき、未来を拓くための学力（主体性、協働的解決、表現・貢献）をつける

活用型・探究型学習のための単元・課題づくり、教育システム（教育課程）づくり

(2) 自尊感情(自己肯定感)を醸成し、思いやりの心(他者意識)を育成する

対話・話し合い あいさつ 扉を閉める 掃除 誰かのためという発想・実践(貢献)

(3) 自分で生活をつくる(自己管理)、自分で自分を成長させる(自己育成功)強さをつける

生活を見つめより良い選択 自分の命を自ら守る ルールをつくり守る 自らを高める

＜めざす教師像実現のために＞

チーム浜田（エンパワメント、メンター）、担任力(学習指導力、生徒指導力、特別支援教育力)アップ

重 点 項 目	具 体 的 事 項
(1) 未来を生きぬき、未来を拓くための <u>学力</u> （主体性、協働的解決、表現・貢献）をつける	①<u>日々の授業の充実</u>(「昭和の授業」からの脱却) ○学校研究テーマに向けた研究授業と日々の授業での実践の積み上げ ・子どもたちにとって「やらされる学習」から「自らする学習」への転換 ・子ども自らが悩み、互いに知恵を出し合ってより良い答えを創る授業づくり ・活用型・探究型の授業開発による学習意欲の向上 ○単元づくりを通した授業改善 - それはそれという授業ではなく、学年の縦の系統性や教科・領域と横断的に関わるゴールイメージ(ねらい)のはっきりした単元づくり。生活や地域から

(1) <u>未来を生きぬき、未来を拓くための学力</u>（主体性、協働的解決、表現・貢献）をつける	学びを創り、学んだことを活かす(表現・貢献)ことや次の新たな課題につながるような授業づくり(カリキュラムマネジメント) ※参照: http://www.pref.yamagata.jp/ou/kyoiku/707001/30ef30f330fc30fc%20H29-914d5e037528.pdf ②(特に)生活科・総合的な学習の時間の原点回帰 ○無条件な前例踏襲や「はじめに活動ありき」の学習をしない。「気づき」や子どもたち自らが見つけた課題・疑問等をもとに単元をつくる。 ・“なぜ松の枝打ちをする(したい)のか?”が学びのスタート ○活動が「打ち上げ花火」とならない、その学びの成果を活かすことや他者への表現活動、貢献活動に ・国語や生活科の学びのゴールとして“保育園児との交流”がある ③上位層への支援と基礎・基本の徹底 ○習熟度に応じた課題提示、環境設定、高みの問題 ○学習の構えづくり(学習態度、学習習慣、学習環境、学級づくり) ○家庭学習習慣化(中学校区での連携も視野に) ○特別支援教育(UD)の視点を生かした指導・支援の工夫 ④学びを豊かにする読書指導と図書室機能の充実 ○授業内容・進度に応じた図書の提案・提供 ○読書好きな子どもにする環境・支援
(2) <u>自尊感情(自己肯定感)</u>を醸成し、<u>思いやりの心(他者意識)</u>を育成する	①対話・話し合いの重視 ○日々の授業・生活の中に話し合い活動(議論)の場の設定 ・子どもの思い、考えを大切に 教師はファシリテーターに ・道徳の授業、改善のキーワード: 考え、議論する道徳、モラルジレンマ ・自分をふり返し、自分の問題として悩み、考え、実践する → 自分たちの暮らしをより豊かに(学級活動、児童会活動) ○対話ができる環境づくり(学級づくり、児童との関係づくり) ・温かな学級づくり 子どもを尊重する教師 ②他者意識・相手意識を育成する教育活動の創造 ○日々の授業のかかわりの中で(話し方、聴き方、表現活動……) ○日々の生活の中で(あいさつ、返事、言葉づかい、掃除……) ・あいさつ(会釈)、「さん」付け ・日々の清掃も自分のために、相手のために ○ファミリー活動、誘い合い登校 ・異年齢集団活動におけるリーダーシップ、フォロアーシップ ③よさ、がんばりを認め合う学級文化の醸成(よさへの注目と勇気づけ) ○Q-Uを生かした学級集団づくりのための研修と実践 ・学級ルールづくり SGE、SST
(3) <u>自分で生活をつくる(自己管理)</u>、<u>自分で自分を成長させる(自己育成力)</u>強さをつける	①自分たちの学校は自分たちでつくる子どもの育成 ○自分たちが居心地のいい学級・学校をつくる(学級活動や児童会活動の工夫) ・まずは子どもの悩みや、やりたいという意欲からスタート(課題意識) → より豊かなくらしのためのルールを自らつくる(解決志向) ・できばえ(結果)よりもその過程を重視(過程主義) ○学校行事・活動を自らつくる、楽しむ(ファミリー活動) ・ファミリー清掃班を核とした異学年交流から学ぶ、人と人とのかかわり ・ファミリーハイキング、ファミリータイム ・リーダーシップとフォロアーシップ ②自分のいのちを高め、輝かせる子どもの育成 ○自分の課題を意識し、それを克服する生活態度づくり(自己管理力) ・体づくり、体力向上 → 体力の課題の克服(教科体育、体育活動) → いきいきタイム、ファミリータイムの活用(体育、児童会) ・危機回避能力の向上

(3) <u>自分で生活をつくる</u> (自己管理)、自分で自分 を成長させる (自己育 成力)強さをつける	→ 実践的避難訓練(訓練のための訓練にしない)の実施 → 自転車乗車時のヘルメット着用 → 誘い合い登校、下校の指導(上級生の役割) ・ 学校外生活の充実 → 生活リズムと家庭学習のより良い習慣化(夢の実現のために) → 学校・家庭における読書活動の推進 → メディアコントロール+ネットモラル (PTAと共に) ネットモラル学習 ○食育を窓口にした教育活動の推進 ・ 栄養教諭と連携した食に関する授業 → 食と生活、学習と関連した授業実践(学級活動、総合など) ・ 食物アレルギーへの慎重、ていねいな対応
--	---

7 平成30年度の児童数

4月1日現在

学年	1 組			2 組			よつば			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	12	6	18	11	7	18				23	13	36
2年	12	8	20	11	10	21				23	18	41
3年	18	17	35							18	17	35
4年	23	14	37							23	14	37
5年	17	14	31				1	1	2	18	15	33
6年	11	12	23				2	1	3	13	13	26
合 計										118	90	208

家庭数：157